



天満宮

題字／後西天皇御宸筆

特集

- ◆ 天神さまと私 同志社大学 学長 植木朝子さん
- ◆ 菅公の祥月命日 梅花祭厳かに斎行
- ◆ 新型コロナウイルス感染症鎮静祈願祭斎行

日本文化の中心地 京都

その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天曆元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

創建以来、皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに將軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあつて、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道大祖 風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるとともに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造と称され、国宝の指定を受ける桃山文化の代表的建築です。その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与えています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



京都 平安京の天門

【シンボルマーク】

平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居（北野）で捉えたマーク。北野は千二百年に亘り、国都として文化を育んだ平安京にて、天の神々の出入口「天門」に菅原大神が奉祀された聖地です。爾来、北野の地より全国に天神様の御神威が益々昂揚していきました。

表紙写真 — 季節の花で美しく彩られた楼門東側の手水舎 —

手水は神社参拝の際に、身も心も清め、清々しい気持ちで参詣するための禊の儀式である。古くより水を使わず、自然の草花を用いて手水の代わりとするものもあり、花手水も一種の清めの所作といえるだろう。初夏の参詣の折には、可愛らしい花とあわせて、ぜひ花手水をお受け頂きたい。（6月1日～6月30日の期間に設置予定）



御挨拶

新型コロナウイルス感染症鎮静を祈願

先ず以て聖寿の万歳と皇室の弥栄、並びに氏子崇敬者の皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。さて、中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症は、今や世界中に蔓延し、その終息は未だ見通せない状況にあります。当宮ではこの状況を鑑み、今春予定しておりました梅苑ライトアップをはじめ、曲水の宴や京菓子コレクション（京都市観光協会主催）など、様々な恒例行事について、中止もしくは縮小のやむなきに至るなど、感染症の影響に苦慮する春となりました。

現在、世界中の政府や研究機関・専門家が一刻も早い終息に向け、持てる知見や技術を結集してこの問題に取り組んでおられますが、新型コロナウイルスという見えない自然の脅威に対し、未だ人智をもって抗う事が出来ない状況にあります。

千年以上昔の国都、平安京でも様々な疫病が流行り、天災が起こるなど、民衆を苦しめました。人々は疫病を収めるべく、あらゆる手立てを講じ、その厄災を鎮め祓う為に神に祈りました。「御霊信仰」が社会通念として浸透していた当時の人々は、まさに「人事を尽くして、天命を待つ」思いで、日常を過ごしていたと思います。

世の中が混沌とした現在の状況下において、我々の為すべきことは、出来る限りの対策を講じ努力を尽くす、正に『人事を尽くし』た上で、神職として国民の先頭に立って神々に祈りを捧げ、そして『天命を待つ』という、その姿を人々に示すことだと考えております。

当宮では、例年御祭神の祥月命日にあたる二月二十五日に梅花祭を斎行しました。御祭神の御遺徳を偲ぶと共に厄除の信仰を併せ持つ神事で、特殊神饌「梅花御供」には、梅花の献上のほか、男女各々の本厄歳の本数にあたる梅枝（紙立）と厄除玄米をお供えし、災難厄除を祈願致します。本年は、とりわけ昨今の感染症鎮静を願ひ、御神前に祈願した次第でございます。また併せて、日毎朝夕に感染症鎮静祈願の祝詞を奏上し、この疫病が一日も早く収まり、人々に穏やかな日常が戻るよう、真心を込めて祈りを捧げております。

さて、七年後齋行の菅公千二百二十五年半萬燈祭に向けた種々の事業は、新年度より、（仮称）平安儀式殿建設を中心に、いよいよ具体的な準備を進める段階に入って参りました。先般開催いたしました北野天満宮講社常任理事会におきまして、会長千玄室裏千家大宗匠名代として村上利行執事ご出席のもと、講社会員並びに氏子崇敬者各位に対し、半萬燈祭への機運を高めるべく、今夏より『北野萬燈会』と題して執り行う提灯献燈事業実施の旨を、全会一致でご了承戴きました。加えて、これまで取り進めてきた文化行事をさらに加速させ、あらゆる分野から多角的に当宮の信仰を解釈し、天神信仰発揚に繋がる諸事業を半萬燈祭記念事業として執り進めて参る所存でございます。

引き続き、氏子崇敬者各位におかれましては、天満宮護持と御神徳発揚のため、格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北野天満宮

宮司 橘 重十九



災難厄除の靈験あらたかな梅花祭で供える特殊神饌「梅花御供」



菅公の祥月命日 梅花祭厳かに齋行

今年も皇后陛下の御代拝参向され御拝礼
梅花満開、参拝者で華やぐ境内

菅公御歌 「東風吹かば 匂ひおこせよ 梅の花 主なしとて 春を忘るな」



皇后陛下御代拝参向による御拝礼（宮内庁京都事務所長）

梅花をこよなく愛された菅公の祥月命日に当たる二月二十五日、御本殿において午前十時から梅花祭を厳かに齋行し、御祭神の御遺徳を偲んだ。

菅公は、延喜三年（九〇三）二月二十五日、無実の罪で左降された九州大宰府の地で薨去される。

「梅花祭」は、その御遺徳を偲び、御神慮を景仰する祭典。鳥羽天皇の天仁二年（一一〇九）二月二十五日に齋行された記録が残っており、九百年以上の伝統を持つ当宮の祭典の中でも最も重要な祭事の一つである。

御神前に梅花が供せられた後、特殊神饌「梅花御供」「紙立」が奉饌され、西ノ京の当宮神人の末裔で組織される七保会の宰領が振幣（奉幣の儀）を行い、三種の祝詞を宮司らが奏上した。

貞明皇后が行啓された古例に則り、今年も皇后陛下の御代拝として宮内庁京都事務所長が参向し、御拝礼された。こうした御拝礼は全国的にみても極めて珍しい祭祀の形とされている。

また、かつて梅花祭が「菜種御供」と称されていた名残として、祭典を執行する宮司以下神職は冠に菜の花を挿してご奉仕することが慣例となっている。

この日は曇り空ながら暖かく、境内にある五十種、約千五百本の梅はすでに見頃。梅を愛でるために訪れた観梅者に加え、御縁日の参拝者や厄除祈願でお参りする人も多く、境内は終日賑わいを見せた。



七保会 宰領 吉積徹氏による「奉幣の儀」



お供えされる梅花

特殊神饌「梅花御供」「紙立」は
調製した西ノ京神人末裔の信仰の篤さ



御神前に供えられる「梅花御供」

梅花祭の御神前に奉饌された「梅花御供」「紙立」は、この日だけにお供えされる特殊神饌であり、調製に従事した「七保会」は、菅公に随行して大宰府に赴き、薨去後は御作の木像を奉じて京へ帰り、代々祭典の奉仕をした西ノ京神人の末裔とされる。

令和の御代となっても、菅公をこよなく崇敬されている人たちの手によって、神饌が調製され、祥月命日の御神前に毎年絶えることなく奉饌されるところに梅花祭の伝統の重みがある。

その「梅花御供」には、蒸した米を大小二つの台に盛った「大飯」「小飯」と呼ばれる二種があり、前日の二十四日、精進潔斎した七保会会員が浄火を用いて調製した。

また「紙立」は、厄除玄米入りの仙花紙の容器に紅白の梅の小枝を挿したもので、男女の厄年に因んで白梅四十二組、紅梅三十三組からなる。この「紙立」の調製に用いた玄米は、ご飯に炊き込んで食べると災難厄除の御利益をもたらすとの信仰が古くから伝えられ、「厄除玄米」として参拝者にも授与している。

梅花祭とは菅公の御遺徳を偲ぶとともに、厄除信仰の靈験あらたかな神事である。



梅花御供を供す



「大飯 小飯」を供す

見頃の梅花の下、野点大茶湯



上七軒歌舞会協賛席「野点大茶湯」



華やかにお点前

梅花祭の日の協賛席である「梅花祭野点大茶湯」が紅梅殿前の別離の庭で催された。新型コロナウイルスへの感染拡大が心配される折、参加人数を絞り、参加者は全員マスク着用、上七軒歌舞会の芸舞妓はお点前のみにとどめ、お運びなどの接待はマスク着用者が行うという厳戒態勢での開催となった。

豊臣秀吉公が天正十五年（一五八七）、当宮境内で開いた北野大茶湯に因む催しで、昭和二十七年の菅公千五十年大萬燈祭から毎年行なわれている。

梅花の下、芸舞妓らの接待で一服を楽しむことが出来るため、例年であれば順番を待つ人の長い行列ができるが、今回に限っては感染症拡大防止のため、茶会参加者を三分の一程度に絞り、茶席でのお菓子の受け渡しも止め、茶碗は手渡しにせず盆に載せて出すなどの措置がとられた。

例年とは異なる形式となった野点茶会に対し、参加者は「ウイルスの感染拡大が心配される折だけに仕方がないこと。でも中止にならずに満開の梅の下で一服を楽しむことができてよかった」と話す人もいた。
(恒例の梅花祭献句は二十五頁に掲載)

新型コロナウイルス



新型コロナウイルス感染症鎮静祈願祭（3月25日）

神事厳粛に、春の行事中止や縮小相次ぐ
消毒液置き、巫女もマスク着用し
感染予防徹底

新型コロナウイルス感染症が世界中に猛威をふるい、社会生活に大きな影響が出ている中、当宮でも参拝者が多数集まる春の行事を軒並み中止や縮小し、神事のみを厳粛に行なう一方、境内各所に消毒液を置き、参拝者と接する授与所の巫女にマスクを着用させるなど防護措置を徹底した。

これら一連の感染予防対策は、この時期多くの参拝者を受け入れる当宮として、参詣者の健康と安全確保を考慮したものであり、参拝者や神社関係者など多くの方々の理解と協力を求める形で実施した。

感染症鎮静祈願祭を斎行 梅花祭野点茶会にも影響

御縁日の三月二十五日午前九時から御本殿において、宮司が斎主となって月次祭に引き続き新型コロナウイルス感染症鎮静祈願祭を斎行。一日も早くこの災いが鎮静し、国民が平穏な日々を取り戻せ



撫牛に消毒液を設置

るよう祈りを捧げた。

二月三日の節分祭の頃は、中国での状況が大きく報じられてはいたものの、市民の関心はまだ薄く、マスク着用の参拝者も少なかった。

ところが、国内での感染者が次々報道されるにつれ、参拝者の中にもマスクを着用する人は日

ごとが増え、行事に影響が出始めたのは、菅公の御遺徳を偲ぶ梅花祭斎行の頃からであった。

御本殿での梅花祭は、例年通り皇后陛下の御代拝の御参拝を賜り厳かに斎行したが、この日の呼び物となっている紅梅殿別離の庭での「梅花祭野点大茶湯」が参拝者の密集を避けるため大幅に縮小された。

天正の「北野大茶湯」の故事に因むこの「野点大茶湯」は、咲き誇る梅花の下、上七軒歌舞会の芸舞妓さんのお点前で一服が楽しめる行事として、例年長い行列が出来るほどの賑わいを見せるが、本年は「参拝者に感染があってはならない」との立場から、参加者を例年の三分の一に絞り、参加者全員マスク着用を徹底し、茶席でのお菓子の受け渡しをやめ、茶碗も手渡しにせず盆に載せて出すなど感染拡大防止の対策を講じての開催となった。



野点大茶湯 お盆に載せて茶碗の受け渡し

感染症鎮静

祈願祭を斎行

春の「曲水の宴」、
京菓子コレクションは中止

春先で最大の催しである春の「曲水の宴」と、京都市と京都市観光協会が主催する「京菓子コレクション」は中止となった。

今年で五年目を迎える「曲水の宴」は、三月七日に執り行う予定で、漢詩を詠む男性の詩人、和歌を詠む女性の歌人各四人もすでに決まり、準備万端整って宴を待つばかりとなっていた。

奈良・平安時代に宮中で盛んに行なわれた「曲水の宴」を、当宮では和魂漢才の菅公精神に基づき、和漢朗詠という新しい形態で毎年春と秋



マスク対策などの中、訪れる参詣者

の二回斎行している。例年であれば白拍子の奉納も評判を呼び、会場の椅子席は、「平安の雅」を堪能する参拝者で満席となるほどの賑わいとなるが、感染症予防のため、戸外といえども、多くの人が接する状況はなるべく避けるべきと判断。実行委員会などが協議熟慮の末、やむなく中止となった。(二十二頁参照)

「京菓子コレクション」は、茶文化の信仰篤い当宮で、京菓子の魅力を発信する催しで、二月二十九日と三月一日、文道会館で開催の予定だった。京都の菓子文化が「京都をつなぐ無形文化遺産」に選定されたことを記念し、京都市観光協会などの音頭取りで開かれているもので、今年で三回目を迎えることになっていた。過去二回の経緯から多くの人の参集が予測されたため、同協会が中止を決めた。

京都連歌の会 「梅ヶ枝連歌」奉納も中止

また、三月二十一日に紅梅殿で行う予定だった参拝者に公開する形での京都連歌の会による「北野天満宮梅ヶ枝連歌」の奉納も中止となり、同日午後二時より、会員による御本殿で



正式参拝のみ執行

の正式参拝のみ執行、創作の連歌が御神前に奉納された。(二十四頁参照)

梅苑のライトアップは三日間のみ実施 参拝者の健康と安全確保を 考慮した苦渋の対策

この時期、本来であれば賑わう梅苑のライトアップは、当初予定の十二日間から大幅自粛し、三日間で終了となった。併せて参拝者に人気のある神若会北野天神太鼓会の太鼓奉納や猿廻しなどの伝統芸能奉納も中止にするなど、徹底的に参拝者の集まりを避ける方策を講じた。

また予約が入っていた海外からの団体ツアーや国内旅行ツアーなども感染の広がりとともに軒並みキャンセルとなり、参拝者数に大きく影響を及ぼす結果となった。



およそ700燈のろうそくで照らし出した梅苑

【梅苑公開】

新型コロナウイルス感染症拡大の中、毅然と咲く梅花
暖冬により例年より二週間早く満開
梅の香満喫、笑顔の観梅者



見ごろの梅苑



苑内を散策する観梅者

梅苑の公開は昨年より八日も早く、一月三十一日から始まった。暖冬の影響で梅の開花が早まり、二月下旬には例年より二週間ほど早く盛りとなり、梅苑では参拝者が美しく咲き誇る白梅や紅梅の香を満喫しながら観梅を楽しんだ。

境内には約五十種、千五百本もの梅の木があり、例年二月上旬から三月下旬にかけて開花し、梅の香漂う苑内は、京都市内では有数の梅の名所として観梅の参拝者が全国から訪れる。

今冬は一度も雪景色が見られないほどの暖冬で、梅の開花が極めて早く、二月二十五日の梅花祭にはすでに見ごろを迎えていた。

しかし、今年には新型コロナウイルス感染症の拡大が心配される中とあって、見ごろを迎えても例年ほどの混み合いはなく、マスクをして苑内をゆっくり散策する姿が目立った。「新型コロナウイルスの感染拡大が少し心配だったが、変わらず美しく毅然と咲く梅の花を見て心なな思いがした。参拝して良かったとしみじみ感じた」と大阪から訪れたご夫妻は話され、世間の騒々しさをよそに、美しく咲く梅花を見ながら談笑し、スマートフォンをかざして撮影する人が多く見られたのも印象的であった。

京都先端科学大学

「京都太秦キャンパス」竣工式を斎行

京都市右京区に校舎を構える京都先端科学大学京都太秦キャンパスの南館新築工事の竣工式が、二月二十七日に同キャンパス南館嵯峨野ホールで斎行された。

祭典は午前十時より、当宮神職奉仕のもと、同校学校法人永守学園理事長永守重信氏をはじめ、大学関係者・キャンパス建設に携わった工事関係者、当宮の橋宮司ら、およそ三十名が参列し、校舎の無事竣工と同校の今後益々の発展、学生たちの更なる活躍を祈願した。



さらに昨今の世界中に蔓延する新型コロナウイルス感染症拡大にも触れ、「御祭神の昔公が活躍された平安時代当時、人々は様々な知識や思想を取り入れ、祭りや儀式を行い、真心を以て、神に祈りを捧げることにより、国難を乗り越えてきました。貴校が、これから世界で活躍できる豊かな人材を育て、現代の様々な問題に対し、豊富な知識と最新の技術を用いて立ち向かい、人類の最先端科学を極めるべく、益々発展することを願っております」と述べた。

また永守理事長は、「竣工式で奏上された祝詞を聞き、深く感銘を受けました。本日参列の大学関係者はじめ職員一同、この祝詞の言葉を胸に、大学発展と人材育成、社会貢献に務めて参りたい」と感謝の意を述べられた。



天満宮講社臨時常務理事会開催

理事会中止を決め、令和二年度事業計画案を可決



北野天満宮講社（会長千玄室裏千家大宗匠）の臨時常務理事会が三月六日、文道会館で開かれ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により四月に予定されていた理事会を中止することに決め、上程された令和二年度事業計画案・予算案などを原案通り承認可決した。

冒頭、宮司が「一刻も早く社会情勢が平常になるよう祈りを捧げ、千百二十五年半萬燈祭に向けて役員各位の温かいご理解、ご協力をお願いしたい」と挨拶。

引き続き、多忙のため欠席された千会長に代わって名代として出席され

た裏千家の村上利行執事が「東西廻廊などの御屋根葺き替えは順調に進み、令和二年度は御本殿廻りの透塀の御屋根葺き替えに入り、一連の工事の完遂を目指します。役員の方には募財奉賛活動に絶大なご尽力を賜り感謝致します。七年後に迫った千百二十五年半萬燈祭に向け、かつての勅祭・北野祭再興を目指し、旧儀の復興に務めています。その一環として夏には御本殿前や参道に千五百燈余の提灯を掲げ、機運を高めようと思っています。変わらぬ御支援をお願いします」との会長挨拶文を代読された。



その後、議事に入り、四月に開会予定の理事会の中止を決め、令和二年度の事業計画案などを原案通り可決した。



菅公千百二十五年半萬燈祭に向けて、「北野萬燈会」を斎行

「北野萬燈会」を斎行

古くより、御祭神への崇敬の誠と御神慮をお慰め申し上げるために燈火を捧げる神事を「萬燈会」と呼び、当宮では創建以来、御祭神の薨去より五十年毎に一度の神事を「大萬燈祭」、二十五年毎に一度の神事を「半萬燈祭」と称して連綿と祭典を執行してきた。

提灯を献燈した三光門前参道のイメージ図



現在、令和九年菅公千百二十五年半萬燈祭に先駆けて、氏子崇敬者各位にご奉賛を賜り執り進めている重要文化財東西廻廊御屋根葺き替え事業は、第二期工事が完遂し、引き続き御本殿廻りの透塀の改修工事に着手している。この千百二十五年半萬燈祭に向けた一連の事業を更に進展させ、天神信仰の更なる発揚に期するため、先の天満宮講社常務理事会では、

崇敬者各位に
対して、
家内安

全・災難厄除・学業成就の祈念を込めた奉賛提灯の献燈をお願いする事が決定し、実施に向けて準備を進めることとなった。

「北野萬燈会」と称して開催する本事業の実施期間は、本年八月中旬の境内夜間ライトアップ期間と八月二十五日の御縁日。境内三光門前参道を中心に、およそ千五百燈の提灯を点灯させる。

北野萬燈会 献燈のご案内

日々の感謝やお礼、合格祈願や商売繁盛
さまざまなお思いを込めて：



提灯見本 高さ30cm 幅13cm

※ご芳名は表面に記名致します



北野天満宮



根本御影

北野天満宮 厄除信仰の歴史と現在

平安京の天門に祀られた 御霊信仰の御社

北野文化研究所 室長 松原 史

現在、世界は新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされ、未来の予測は困難な状況となっております。しかし人類の歴史を紐解けば、疫病や天災との戦いの歴史といっても過言ではないほど様々な危機があり、神社もその未曾有の危機に際して祈りの場としての役目を担ってきたことは言うまでもありません。現在も社内で日々齋行される神事・神賑行事も、疫病封じや穢れを落とすなど厄除信仰を礎としたものが少なくありません。神社には、厄除（文字通り「厄災を除ける」）、厄災から国と人々を守るために祈り続けてきた歴史がありました。改めて北野天満宮の歴史と厄除信仰を概観したいと思います。

菅原道真公（菅公）をお祀りする北野天満宮は、無実の罪で薨去された菅公を鎮めるため、いわゆる御霊信仰の御社として創建されました。御霊信仰とは、無実の罪を着せられるなど非業の死を遂げた人々の怨霊が、疫病や天災を引き起こすと信じ、それらの御霊を丁重に祀ることでその祟りから逃れ疫病や天災を鎮めようとするをいいます。平安遷都を行つた桓武天皇の実弟早良親王が無実の罪で廃嫡され流刑の地で非業の死を遂げたことにはじまることされ、以後平安時代を通じて御霊を慰める御霊会が各地で行われるようになります。北野御霊会は祇園御霊会とならび、日本で最も有名かつ古くから行われてきた御霊会のひとつです。御霊会は疫病などを遷却する鎮魂の祭であり、読経の他、神輿渡御や芸能の奉納などもなうものもありました。

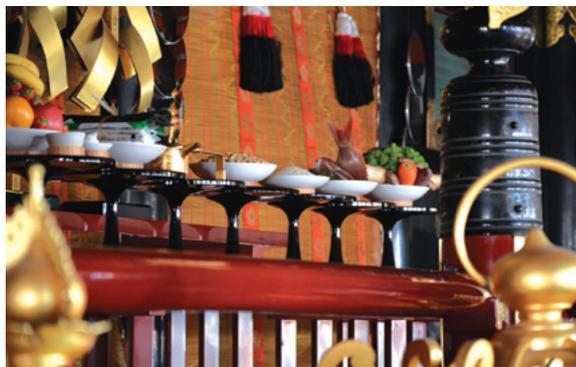
菅公も無実の罪で大宰府に流され薨去されたのち、古くから聖地・霊地とされた北野の地に祀られました。当時、藤原時平や醍醐天皇の死、清涼殿の火災などは菅公の崇りとされ、人々に強烈な畏怖の念を抱かせました。それだけ力のあつた菅公の御霊を正しく祀ることで鎮めた北野社は、翻って強い鎮めの力をもつ御社として信仰を受けるようになります。

怨みを解かれ善神となられたのち、菅公ならびに北野社は平安京の天門の守護神・皇城鎮護の神として国の政をつかさどる人々から格別の信仰を受けて参りました。十世紀末からは、文芸・芸能の神としても信仰をあつめるようになり、折々に皇室をはじめとする多くの方々により病氣平癒の祈願を受けて参りました。

■ 祭祀と年中行事

日々行われる祭祀や年中行事の中にも、厄除の信仰に基づくものが多くあります。

▽ 節分祭



節分祭

二月三日に行われる節分祭。京都の節分は四方参りともいわれます。鬼門より入ってきた鬼を吉田神社が祓い、祇園社（八坂神社）が祓い、壬生寺が祓い、最終的に北野に逃げ込んだ鬼を祓って天門から出ていってもらうというもので、

古くよりこの四社を巡拝する習わしがあります。この「鬼」とは「疫病」をはじめとした災難をさす表現だったともいわれています。立春という季節の変わり目に際し、流行りがちな疫病を含む災難厄除のお祭りが、節分祭なのです。



▽梅花祭

天神様の祥月命日である二月二十五日に行われる梅花祭も、御祭神をお慰めすると同時に、季節の変わり目に際し厄除を願うお祭りでもあります。祭祀の中で御神前にお供えする紙立は、厄除け玄米に紅白梅の小枝を差したもので、男子の厄年である四十二本の白梅と女子の厄年である三十三本の紅梅とがお供えされます。梅花祭は、古くは「菜種御供」と称されていたのですが、これは御神霊を「なだめる」という音に通ずる菜種の花を供えたからといわれます。現在もその名残で、祭員は冠に菜種の花を挿してお祭りにご奉仕いたします。



梅花祭



紙立 女子の厄年である33本の紅梅

▽七夕
旧暦七月七日に行われる北野の七夕は、御手水神事と称されます。七夕に際し、菅公に歌をお詠みいただくお祭りであると同時に、気候の不安定な時期に五穀の順調な生育と万民の無病息災を祈願する暑気払いのお祭りでもあります。季節の野菜を用いた特殊神饌をお供えし、近代の祭祀においては、神事

で用いられ清められた境内の御神水を飲むことにより、身体の内から清めるといふ所作も参拝者の間ではみられたようです。夏は疫病が流行する季節。祇園祭も疫病鎮めの祭りですが、北野の御手水神事もまた厄除の祭りなのです。



御手水神事に用いられる角 盥と椀

▽桃

御本殿の装飾にも厄除けの思想が読み取れます。中国や日本で厄除の果実として古くより用いられてきた桃。残念ながら普段皆さまにはご覧いただけませんが、御本殿中央、要となる一番大きな臺股には、特大の桃の装飾が施されているのです。装飾としても「厄除」が重んじられてきた証のよ



御本殿 桃の彫刻

うに思われてなりません。

▽太刀 鬼切丸

当宮所蔵の太刀鬼切丸にも、以前もご紹介した通り厄除伝説があります。江戸時代、「おこり」（マラリアの一種）という疫病が流行った際、鬼切丸の下をくぐればおこりにかからないとのうわさが広がり、参勤交代の列には「鬼切丸」の下をくぐろうと木戸銭を持つ人々が殺到したと伝わります。



重要文化財 鬼切丸

こうしてみていくと、神事の多くや装飾、御神宝にいたるまで、さまざまなものに厄除の意味が内包されていることがよく分かります。
信仰とは、人の手の及ばない大きな厄災に人々が立ち向かい、祈り、生き抜いてきた歴史であるともいえるのではないのでしょうか。現在も当宮では日々、皆さまの安寧を願い、祈りが捧げられています。この度の騒動により、世界のグローバル化の弊害や皮肉な意味での平等性が指摘されることがございますが、縦の時間軸で見ると歴史においても絶えることのない人の営み、厄除、祈りの意味というものが見えてくるように思われます。新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を衷心よりお祈り申し上げます。

天神さまと私

同志社大学学長

植木朝子さん



今号は、この四月から同志社大学の学長に就任された国文学者の植木朝子さんをお迎えし、橘重十九宮司との対談を掲載する。
(構成・編集部)

梅で繋がる北野天満宮と同志社のご縁

宮司 同志社大学では初めての女性学長ということで、発表があつた時にはマスコミが大きく取り上げました。改めて抱負などをお聞かせ下さい。

植木 女性ということで注目して頂くことはありますが、女性ということが話題にならないことが本来の姿だと思つています。これも女性役職者の数が少ないからであり、数が増えてくればバイアスがかかることもなくなりますので、そのための数の一つとしては自分にも意味があるのかなと思つています。

宮司 数年前になりますが、同志社の創設者、新島襄先生(一八四三〜一八九〇)の妻、八重さんを主人公にしたNHKの大河ドラマ『八重の桜』が放映され、大学も脚光を浴びました。新島襄先生に『寒梅』という漢詩があり、梅が好きだったと伺つています。御祭神菅原道真公が梅が好きだったとの縁が深い当宮です。『寒梅』の漢詩は詩吟でもよく使われています。

植木 そのようですね。新島襄作の『寒梅』がどんな詩だったのか、ご紹介しておきます。

「庭上の一寒梅笑つて風雪を侵して開く争わず又力めず自ずから百花の魁を占む」という最晩年の詩です。

宮司 どういう思いから創られたのでしょうか？
植木 寒中に咲くというのが梅の特徴ですね。そういう厳しい風雪に耐えて咲くところに新島襄は魅かれたのだと思います。それも争つたり無理に咲くのではなく、自然に百花、いろんな花の魁になるように咲く梅の姿を人の生きる姿の理想として捉えたのだと思います。亡くなる直前に創られた詩ですが、この詩をよむと、新島襄の梅に対する思いの強さが伝わってきます。

宮司 同志社大学様と当宮の繋がり示すものとして、新島襄ご夫妻と親交があつた著名な評論家の徳富蘇峰先生(二八六三〜一九五七)が揮毫された「和魂梅」の石碑がございます。紅梅殿別離の庭、今は船出の庭と申していますが、そこを整備するに際して別の場所に保存しているのですが、再びお庭に建てたいと思つています。私が天満宮へ奉職した頃は、ここでも詩吟の稽古をしており、神職も何名か詠んでおりました。徳富蘇峰先生の漢詩もよく詠じられていたようです。天満宮と新島襄先生や徳富蘇峰先生の繋がり当時から色々言われていましたが、詳しく調べないまま今日に至っております。しかし、現に蘇峰先生揮毫の碑が残っておりますから、記録をきちんと調べなければいけません。そのような思いが根底にありますので、曲水の宴の再興ではひとかたならぬお世話になつて植木先生が同志社大学の学長になられたということは大変嬉しく思っております。

植木 ありがとうございます。同志社室町キャンパスには寒梅館があり、今出川キャンパスのチャペルの前には紅白の梅の木があります。天神さんとの不思議なご縁を感じます。

宮司 国語が好きでごく自然にこの道に入られたとか。

植木朝子さん略歴

一九六七年東京都生まれ。お茶の水女子大学文教育学部卒業。お茶の水女子大学大学院博士課程人間文化研究科単位取得退学。博士(人文科学)。十文字学園女子大学社会情報学部助教授などを経て、現在同志社大学文学部教授。専門は日本文学。主要著書に『梁塵秘抄の世界―中世を映す歌謡』(角川選書、2009年)、『コレクション日本歌人選今様』(等間書院、2011年)、『風雅と官能の室町歌謡―五感で読む閑吟集―』(角川選書、2013年)、『梁塵秘抄』(ちくま学芸文庫、2014年)などがある。



曲水の宴での白拍子奉納（紅梅殿）



同志社大学チャペル（重文）前に咲き誇る梅花

植木 そうなんです。教科でいえば国語が一番好きでした。母は大学で国文学を勉強していたので、家庭にそういう雰囲気があったこの道へ進んだのかもかもしれません。子どもの頃から本を読むのが好きでしたよ。

宮司 また、「文学作品の丹念な解説を通して時空を超えた幅広い他者と対話することは、人がよりよく生きるために大変重要だ」とも仰られています…。

植木 自分が経験できることは限られています。文学作品を通していろんな生き方に触れることができますし、過去から引き継がれてきたものを知ることは生きる上での力になります。私は古典に興味を持っていますが、古い時代に生きていた人たちがどういうことを考えていたのかを知ることが、今日的な問題を考える上でも重要なヒントになると感じています。

『梁塵秘抄』を編纂した後白河院の功績

宮司 先生は中世文学の専門家で、とくに平安末に大流行した今様いまようを集めた『梁塵秘抄』りょうじんひし抄については編訳本を始めたくさん著書があります。今様のこと、『梁塵秘抄』を編纂した後白河院のこと、白拍子びやくしのことなど魅力を含めお話し下さい。

植木 文学史というのは近代につくられたものなので、たとえば紫式部の『源氏物語』とか清少納言の『枕草子』とかといった特出した個人がつくりあげた作品を重視する傾向にあります。一方、今様とは「今めかしき」を持ったはやり歌であり、名もなき人たちが、相対的に低い階層から生まれてきたものです。短い詞章の中に人生の様々な姿を浮かび上がらせているところに魅力を感じます。近代に構築された文学史による評価基準とは別の面白さがあります。後白河院（一一二七〜一一九二、第七十七代天皇）は、そうした今様の魅力に憑りつかれ、今様を歌うことを専門とする女性芸能者の遊女や傀儡などをそばに召して今様を習い、それを集めて『梁塵秘抄』を編纂します。白拍子は、歌うだけでなく舞いもする男装の女性芸能者です。

宮司 後白河院は、天皇としての在位は三年程度と極めて短くて、院政を長くひかれた人と認識していますが…。

植木 今様など遊びごとに熱中し、父の鳥羽天皇から帝王の器に非ずとまでいわれます。しかし、政治の中心からはずれていたからこそ、今様のようなものに力を注ぐことができ、結果的に後に貴重なものを残したといえます。今様によって政治をコントロールするような一面もあり、本当に幅広い人ではなかったのか、そんな風に思っています。

宮司 では、今様が残ったのは、まさしく後白河院の功績といえますね。

植木 そうなんです。『梁塵秘抄口伝集』に「詩や和歌や書は書き留めておけば後世に残るが、声技の悲しきことは、自分の死後に、形が残らないことだ。何とか残そうと口伝を作った」と、書かれていますから。

宮司 とところで、『梁塵秘抄』の中には、具体的な社寺名も出てくるようですが、当宮の名は出てこないでしょうか。

植木 現存する神歌の中には出てきません。しかし、『梁塵秘抄』の現存部分はわずかであり、散逸した中に北野さんも入っていたかもしれません。

宮司 当宮の曲水の宴では実行委員会メンバーとして、再興に大変なご助力を賜ったばかりでなく、初回から今まで和歌の披講をして頂き、さらに平成三十年秋には歌人として和歌も詠んで頂きました。その折の感想をお尋ねします。

植木 皆さんがお創りになった和歌は、先生のご指導もあると思いますが、大変お上手でいつも感心しています。さて、私が歌人として体験させて頂いた件ですけれど、見ているほど優雅なものでなく結構大変だなあと感じました。でも装束を着ける体験は非常に貴重なもので、本当によい体験をさせて頂いたと感謝しています。

和漢朗詠の『曲水の宴』は貴重

宮司 実行委員会のお立場から、当宮の曲水の宴をどのように感じておられるのでしょうか。

植木 実態がわからない古いものを再興するのは大変だと思います。もし、実態がある程度わかったとしてその通りにやっても、今見て下さる方が面白くないという可能性だってありますし、その辺りは難しいと思います。天満宮の



曲水の宴にて、歌人としてご奉仕される植木先生（平成30年11月3日）

場合は和漢朗詠という形をとって、漢詩の思いというものが皆さん方にわかって頂けるような形になったのは、非常に貴重だと思います。

宮司 菅公が宇多天皇主宰の曲水の宴に何度も出ておられたという記録があり、当宮で再興する機縁となりました。今、どこの神社でも和歌が詠まれています。菅公が「和魂漢才」のお方でしたので、再興するなら「和漢朗詠」で行うと考えておりました。それが実現されて大変嬉しく思っております。その上、白拍子までご奉納頂き、一時間が瞬く間に過ぎてしまい、参列の方々も大変興味深くご覧になられています。当時のことはわからないとしても、鎌倉期には実際に当宮にも白拍子が奉仕していた、という記録もあるようなので素晴らしい演出だと思います。

植木 中世になると神社の公的行事に白拍子が奉仕するようになります。遊女や白拍子は一般的には社会的地位が低いと考えられやすいですが、実は貴族社会にも深く入り込んでいた芸能者なんです。

宮司 話は違いますが、出雲阿国もここで舞台を踏んでいます。

植木 そうです、北野ですね。四条河原が最初ともいわれますが、北野は文献にきちんと残っています。

宮司 京都の大学で教鞭をとられることは中世文学を専攻される先生の研究に役立ちますか。

植木 古典には京都の地名がよく出てきますが、その場が身近にあることに感動しながら日々を過ごしています。個人的なことでは、京都へ引越してきて初めての冬のこと、しぐれを体験し感動しました。というのは、和歌の中で、しぐれがみじを染める、という表現がたくさん出てきますが、関東の大学で教えていた時は、しぐれは初冬に降る雨などと辞書的な説明をするだけでしたので、京都で実際にそれを体験してみても「これだ」と、ものすごく感激したんです。京都は古典の言葉が実感できる場所なので本心に幸を感じます。

宮司 何かで拝見致しましたが、高校生に贈るメッセージとして天折された親友の歌人、安藤美保さんの一首「緻密に緻密かさねて論はつくられぬ崩されたくなく眼をつむりおり」をあげておられました。意味するところをお聞かせ下さい。

植木 安藤美保は、大学院修士課程在学中、共に博士課程を目指していた友人ですが、事故で亡くなってしまいました。まだ二十四歳でした。この歌ですけれど、たとえば論文を書く時、緻密に論を積み上げていきますが、一瞬後にその反証のようなものが出てくれば、全部崩れてしまう。やっとなら崩れてしまうかもしないという不安、そんな微妙な気持ちで歌われていると思います。常識を疑い、考え抜いて独自の論をつくりあげる。そういう苦悩と喜びを学生たちに味わってほしい、そんな思いでこの歌を引用したりします。この歌の「眼をつむりおり」という静謐な時間、思索の時間を今の若い人たちに持つてほしい。若い人たちこそ、じっくり考え、悩む、静かな時間を持つてほしいと思います。

宮司 菅公は左遷先の大宰府で亡くなられ、神として復活されます。私の解釈は間違っているかもしれませんが、この御歌から、一度や二度の挫折で崩れるのではなく冷静に考えて次の一歩を考えなさいと、言われているように感じました。

植木 もちろん、そういうこともあります。崩れても立ち上がらなければならぬのです。改めて考え直し、思索を深めていかなければならないと思います。

宮司 当宮は年間ものすごい数の修学旅行生が訪れ、学業成就を願い昇殿参拝をされます。これまでの質問と重なるかもしれませんが、改めて子どもたちや若者に向けたメッセージをお願いします。

植木 ここは学問の神さまで。学問は裏切りませんので、たとえば受験に失敗したとしても勉強は無駄にはなりません。宮司さんが仰ったように、失敗してももう一度チャレンジしていくことが大事なのです。受験勉強も無意味ではありません。知識がなければ独創性も生まれませんからいろいろな知識を詰め込み、広い視野で多くのものを吸収してほしいと思います。与えられた課題の唯一の正解を教える必要はない。必要なら学問の過程ではありますが、自ら設定した課題の答えに至る、一つの道ではなくいろいろな道を自ら発見する、それが本当に学ぶことだと思います。

宮司 示唆に富んだご助言をいろいろ頂き、誠にありがとうございます。

庚子 初詣

令和最初の初詣、賑わう

参拝者、様々な願い込めて御祭神に祈る



令和最初の初詣となる令和二年の正月は、好天に恵まれた三が日となり、境内は新しい御代に幸多かれと願う参拝者で大賑わいとなり、御本殿前は御祭神に様々な願いを込めて祈る何列もの長い行列ができた。

新年を迎える最初の神事は、三十一日午後四時から御本殿前で斎行の年越しの大祓が始まった。神社役員・崇敬者ら約七百人が神職といっしょに大祓詞を奉唱し、知らず知らずのうちに犯した罪や穢れを祓った。同七時からは御本殿で除夜祭を斎行。七時半から火之御子社の御神前において鑽火祭を斎行し、古式によって浄火を鑽り出して同十時から火縄授与が始まり、初詣の参拝が始まった。この日、絵馬所前と神楽殿前で一輪ずつ寒紅梅の開花が確認されており、例年より二週間遅れたが令和元年中の開花であり、初詣に花を添えた。

北野祭保存会・北野神輿会は、「北野祭復興」の旗印のもと、ご縁のある京丹後市の大宮賣神社の田んぼで収穫した米で作った甘酒を振る舞った。また、神若会北野天神太鼓会も大福茶の接待を行うなど、いずれも初めての試みを行ったが、両方とも大盛況だった。

新年最初の神事である歳旦祭は、元旦七時から御本殿において斎行。皇室の弥栄、世界平和・国家隆昌・五穀豊穡を祈り、国民・氏子崇敬者の健勝を祈願した。

御本殿前は初詣参拝者で一杯となり、社務所内の待合所は昇殿参拝の順番を待つ人でごった返した。各授与所は、御札や祈願絵馬・御守などを授かる参拝者の行列ができ、牛社・絵馬掛け所周辺も志望校を書き込んで祈願する若者らで賑わった。

表参道を中心に境内一円は露店が軒を連ね、三が日も人、人、人で溢れた。



神前書き初め『天満書』

書道の上達・学力向上を祈願

筆始祭を齋行



を始めることを御奉告した。

「天満書」で力強く書き初め

神前書き初め「天満書」が一月二日から四日まで絵馬所で行われ、初詣の子どもや大人が力強く書き初めをし、書いた作品を奉納した。

「天満書」は、天神さまの御神前で書き初めをし、書道の上達・学力向上を祈るもので、昭和二十七年から続けられている伝統行事。三日間で昨年を六十九点上回る千四百七十五点の作品が奉納された。これに家庭で書かれて奉納された作品千六百二十六点を加え、合わせて三千百一点が今年の奉納作品となった。



書道の神としても崇敬される菅公を偲んで、一月二日午前九時から御本殿で、御遺愛の硯などをお供えし筆始祭を齋行した。書に親しむ人たちの書の上達と子どもたちの学力向上を祈願し、この日から神前書き初め「天満書」

奉納全作品を西廻廊と絵馬所で展示 審査により千三十点が入選

「天満書」として奉納された全作品の展示が一月十七日から二十六日まで、西廻廊と絵馬所で行われ、多くの参拝者が奉納作品に見入った。



審査は展示初日の十七日、日比野実・山本悠雲・竹内勢雲・岡本藍石・尾西正成の五人の先生と宮司によって行われ、千三十点の入選作（神前の部四百七十九点、家庭の部五百五十一点）が決まった。

御本殿で入選者授賞式

宮司が一人ずつ賞状を授与

入選者の授賞式は一月二十六日、御本殿に天満宮賞など特別賞に輝いた子どもや家族が参列し、執り行われた。

授賞式に先立って奉告祭を齋行。参列した子ども代表が玉串を捧げ、全員が拝礼して書道の上達・学問の向上を祈願した。宮司が「入選おめでとう。書道だけでなく勉強もスポーツも頑張ってください」と挨拶し、一人ずつ賞状と記念品を手渡した。



入選者は次のみなさん。

【神前の部】

▽天満宮賞 山中拓音（五歳）、加藤想乃花（松ヶ崎小一年）、和田真緒（桂徳小二年）、村上夏美（亀岡市立大井小三年）、入江千咲葵（亀岡市立曾我部小四年）、樋口さくら（詳徳小五年）、松島亜実（桑名市立藤が丘小六年）、藤本風香（園部高校附属中一年）、新江田光希（詳徳中二年）、仲西優衣（亀岡市立東輝中三年）

▽京都新聞特別賞 菊田悠斗（桑名市立深谷小五年）

▽京都新聞賞 廣瀬匠海（安詳小一年）、渡部友翔（津市立豊が丘小二年）、川崎萌衣（亀岡市立つつじヶ丘小三年）、坂田英資（亀岡小四年）、亀井都愛（紫野小六年）、長谷川青葉（洛南高校附属中一年）、西村結衣（加茂川中三年）

▽鳩居堂賞 水野翔太（東野こども園年中）、小菅陽菜子（普賢寺小一年）、平井莉世（つつじヶ丘小二年）、森田零（つつじヶ丘小三年）、梅本莉沙（三山木小四年）、松村南美（朱雀第八小五年）、加含唯莉（詳徳小六年）、伊藤温（静岡大学教育学部附属浜松中二年）

▽金賞 高岡芽唯（大口北小一年）始め百八十八人

▽銀賞 中西大地（富士見ヶ丘小一年）始め二百六十五人

【家庭の部】

▽天満宮賞 田村美乃（大徳寺保育園年長）、長野詢（魁書道會一年）、野村茉莉（魁書道會二年）、三木春那（祥栄小三年）、百田悠真（魁書道會四年）、高寄馨（亀岡市立安詳小五年）、岩佐春希（亀岡市立城西小六年）、秋永菜帆（田辺中一年）、江上恵（田辺中二年）、船越望乃（同志社中三年）

▽京都新聞賞 松井恵二朗（伏見住吉小一年）、津野倫花（三山木小二年）、村上夏美（亀岡市立大井小三年）、住田陽渚（三山木小四年）、瀧村希和（大宮小五年）、佐藤光（京都教育大学附属桃山小六年）、孫宇佳（洛南高校附属中一年）

▽鳩居堂賞 淵田家紹（西福寺幼児園年中）、清水優愛（住吉小二年）、藤木愛（魁書道會三年）、斉藤夏音（大塚小四年）、清水優姫（住吉小五年）、西岡昇冴（向日市立第6向陽小六年）、志賀蔵馬（亀岡市立詳徳中二年）

▽金賞 山崎薫（大宮小一年）始め二百八人

▽銀賞 栗山大輝（音羽川小一年）始め三百十九人

【審査員の講師】

令和になって初めての「天満書」だったが、北野天満宮の初詣の参拝で書き初めをするという習わしは定着しており、素晴らしいことだ。今年も多くの作品が奉納されたが、そこに書かれている言葉は「挑戦」

【審査員の講師】

令和になって初めての「天満書」だったが、北野天満宮の初詣の参拝で書き初めをするという習わしは定着しており、素晴らしいことだ。今年も多くの作品が奉納されたが、そこに書かれている言葉は「挑戦」

白梅か紅梅か？ 招福の梅の枝の縁起物

「思いのまま」、今年も人気

招福の梅の枝の縁起物「思いのまま」の授与が元日から始まり、今年も参拝者の人気を集めた。

「思いのまま」は、境内神域で剪定した梅の枝に瓢箪（菅公を偲ぶ梅花祭で御神前に供える特殊神饌の玄米入り）を取り付け、春の訪れとともに幸せを招いてほしいとの願いを込めた当宮ならではの縁起物。六年前の初天神で六十年ぶりに復活させたが、花瓶に挿しておけば白や赤の花が咲くことから毎年、新年にふさわしい「天神さんの縁起物」として人気が高い。



楼門の西陣糸人形は『北野大茶湯』

秀吉公・淀君・北政所がお目見え

西陣つくりものの「糸人形」が今年も元日から五日まで、当宮と縁の深い『北野大茶湯』をテーマにして楼門内側に飾られ、初詣参拝者を楽しませた。

この糸人形は、西陣織工業組合の依頼の下、毛利ゆき子西陣和装学院学長の監修によつて有志の方々が毎年テーマを変えて制作されている。

今年も、天正十五年（一五八七）十月、当宮境内で

開いた大茶会『北野大茶湯』がテーマ。楼門向かって右側には、世に名高い黄金の茶室の中に茶杓を持つ秀吉公と、傍らで端座する淀君を、また左側には秀吉公の正室ねね（北政所）がみじの枝を持つ立ち、背後の幔幕から二人の子どもが覗き込むという場面となっている。衣装はもとより顔や草履などの小物に至るまで袋帯や金襴・生糸などを使って見事に制作された糸人形が多く、参拝者の目を止めさせていた。



そろばんはじき初め

新春の恒例行事「そろばんはじき初め」が一月五日、絵馬所で行われた。小学生を中心に約二百六十人が参加。全員が昇殿参



だった「夢」や「希望」だったり、あるいは「健康」や「平和」など、書いた人の心が表れていると思う。新元号の「令和」の字も多かったが、「令和」の和は「平和」の和であり、その願いが強く感じられた。干支の「子」も多く、良い年であつてほしいとの願いが込められていると思う。デジタル全盛の時代であるが、書は記号ではなく書き手の気持ちが表示されるものだ。とくに「天満書」においては、新年を迎えて真っ白な一枚の紙に自分の気持ちを表すわけだから奉納された作品一枚一枚に書き手の顔が見える。審査となると、どうしても技術の優劣で選ぶことになるが、多少下手であつても書き手の熱意が伝わってくる作品も評価に入れて選んだ。

一一般の方々の作品に真面目に書かれたものが例年に比較して多かったことも今年の特徴としてあげておきたい。

拝してそろばんの上達と学業の向上を祈願した後、絵馬所に移動し「読み・書きと並んで文化の向上に役立っているそろばんの腕を磨いて下さい」との宮司の激励を受けた。はじき初めは、長さ五・五メートル、四百桁もある特大のそろばんを使って行われ、見事な指さばきでタマをはじいた子どもたちは、この後「そろばんの腕が上達しますように」「学校の成績があがりますように」などと絵馬に願ひ事を書いて奉納した。

池坊京都支部の献華展

華道家元池坊京都支部による新春恒例の献華展が元日と二日の両日、神楽殿で行われた。

南天やハボタン・松などを使い、立花・生花・自由花によりいけられた七点の新春の香漂う作品が展示され、多くの参拝者が足を止め、見入っていた。



新春奉納狂言

恒例となつてい
る新春奉納狂言が
一月三日、猿樂會
と茂山忠三郎社中
によつて神楽殿で
催された。

小舞を挟んで
『末広かり』『太刀
奪』『寝音曲』『萩
大名』『蟹山伏』『福
之神』の六番が
次々上演され、多
くの参拝者が足を
止め、見入つてい



梅ぼころぶ初天神賑わう

初天神の一月二十五日、梅がぼころび出した境内は
終日、参拝者で賑わつた。
この日の京都市内の気温は最低・最高とも平年を上



回り、寒中とは思え
ないほどの日和と
なつた。

表参道を始め境
内一円は、数多くの
露店が立ち並び、初
詣の参拝者を呼び込
む威勢のよい掛け声
も飛び交つていた。

今冬は、まだ一
度も降雪を見ない記
録的な暖冬とあつ
て、境内の梅の開花
は早くも二分咲きと
なり、ぼころんだ紅
梅や白梅にスマート
フォンを向けて撮影
したり、記念撮影



をする光景があ
ちこちで見られ
た。

この時期は、
すでに受験シー
ズンに入つてお
り、御本殿前だ
けでなく御本殿
の北西に位置す
る牛社や絵馬掛
け所周辺は、受
験合格を祈願す
る若者とその家
族で多いに賑
わつた。

一年間の災厄祓う節分祭
追儺狂言・日本舞踊奉納・豆まき

節分の二月三日、御本殿
で午前九時半から節分祭を齋
行した。午後は神楽殿で伝統
の北野追儺狂言と日本舞踊の
奉納があり、最後は威勢よく
豆まきを行つて今後一年間の
災厄を祓つた。

京都では、節分にゆかり
の四社寺に参詣する「四方詣
り」の習わしがあり、当宮は
その締め括りを担う重要な神
社として信仰を集めている。
社頭では終日、災難除けの御
札や御守、銀幣が授与され賑
わつた。

北野追儺狂言は、約七十
年前に創られた当宮のオリジ
ナル狂言で、撰社福部社の御
祭神「福の神」が、京の都を
荒らす鬼を追い払うという筋
立て。毎年、茂山千五郎社中
によつて奉納されており、福
の神から豆を撒かれて鬼が退
散し、参拝者の笑いと拍手を
誘つていた。

次に上七軒歌舞会の芸舞
妓による日本舞踊の奉納があ
り、最後は狂言師や芸舞妓が、
神楽殿の周囲を埋めた大勢の
参拝者に「福は内!」「鬼は
外!」と、威勢よく福豆袋を
撒いた。



茂山千五郎社中



上七軒歌舞会



豆まき

大祭 春祭を齋行し

五穀豊穰を祈る

五穀豊穰を祈る大祭「春祭」を、三月十五日午前十時から御本殿にて神社役員・崇敬者ら約四十人の参列の下、厳粛に齋行した。

祭典では宮司が祝詞を奏上し、四人の巫女が神楽「紅わらべ」を奉奏、宮司を始め参列者の代表が玉串を捧げ拝礼した。

祭典後、宮司が挨拶に立ち「今、大神様に五穀豊穰と氏子崇敬者を始めとする国民の無病息災を祈りました。現在、新型コロナウイルス感染症が広がっており、今、世界中の人たちが叡知を絞ってこれに対処しています。私たち神職は、この感染症が一日も早く収まるよう日々御祭神に祈っています」と、挨拶した。



梅風祭を齋行

講社隆盛を祈願、八乙女鈴舞はとり止め

当宮の崇敬者で組織される梅風講社

(小石原満講社長)の祭典、梅風祭を三月二十五日、御本殿に約四十人が参列し齋行した。

梅風講社は明治の初め、数多くあった天神講の一つにまとめる形で結成された。十月の瑞饋祭に際し、八乙女・稚児の人選や指導、行列の世話などを始め、神事面で様々なご奉仕をいただいている。

宮司の祝詞奏上の後、宮階有二神社責任役員、小石原講社長が玉串を捧げ、梅風講社の益々の発展と講社員の無病息災を祈願。

例年、巫女装束の八乙女が優雅に鈴舞を奉納するが、今年には新型コロナウイルス感染症防止のため女兒らが通う学校が休校になるなどの措置がとられていることに鑑み、八乙女による鈴舞の奉納はなく、神事のみ梅風祭となった。

祭典後、宮司が「今年には新型コロナウイルス感染症の拡大によって寂しい祭典となった。来年の梅風祭は、いつものように華やかに齋行されるよう日々祈っています」と挨拶した。



祈願絵馬焼納式を齋行

絵馬や割符の願意成就を祈りお焚き上げ

当宮には例年、入試合格・学業成就祈願をはじめ、身体健康や災難厄除祈願など、様々な願いが書かれた数多くの絵馬や割符が奉納されているが、納められた参拝者一人ひとりの祈願成就を祈ってお焚き上げをする祈願絵馬焼納式を、新年度を迎えた四月三日午前十一時三十分より厳粛に齋行した。

境内の中ノ森(参拝者駐車場)に注連縄を張り巡らして齋場を設け、あらかじめ御本殿で火打ち石にて鑽り出した浄火を付け木に移し、うずたかく積み上げられた絵馬や割符に点火。大祓詞を奏上しながら四時間余りかけてお焚き上げを行った。

奉納された絵馬には、学業成就祈願は勿論のこと、昨今の社会情勢を反映し、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を願うものや、家族の健康や日々の平穏な暮らしを願う絵馬など、勉学のみならず家内安全・身体健康・開運厄除など、様々な人々の願いが込められており、神職は神恩感謝の念を込めて奉仕した。





献酒祭

五月中旬

酒造組合や酒造会社の代表らが参列し、御神前に新酒を供え、良い酒ができたことに感謝するとともに、酒造りの安全と業界の繁栄、関係者の息災を祈願する祭典。
室町時代、当宮神人に麴造りの特権（北野麴座）が与えられたことから酒造関係者の崇敬が篤く、関西を中心に約六十軒あまりの酒造会社や酒造組合より日本酒の奉納がある。



文子天満宮例祭（居祭）

四月十六日・十九日

本年は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、神輿渡御は中止。御社殿にて十六日に神幸祭当日祭、十九日に還幸祭当日祭を居祭として祭典のみ斎行する。
当祭の由緒は、天慶五年（九四二）西ノ京に住む多治比文子という童女に「右近の馬場（現在の本社の鎮座地）に菅原大神を祀るように」との御神託があった故事により、この文子の宅跡を霊地として文子天満宮として称え祀った。



火之御子社例祭

六月一日

「雷除大祭」の通称で親しまれる撰社火之御子社の例祭。
火雷神を祀った火之御子社は、本社北野天満宮鎮座以前よりこの地にあり「北野の雷公」と称えられ、雷電・火難・五穀の守護として、朝廷より篤く崇敬された。
当日の特別授与品として雷除のお守りやお札を授与するほか、参道には露店が並び終日賑わう。



明祭（中祭式）

四月二十日

菅公は、昌泰四年（九〇一）藤原時平の讒言によつて無実の罪を着せられ大宰府に流される身となった。その地で菅公が薨去されてから二十年後の延長元年（九二二）四月二十日、晴れて菅公の冤罪が解かれ、右大臣に復し正二位に昇進、左降の宣言が焼却された日にあたることから、その喜びを御神前に奉告する祭典を執行する。

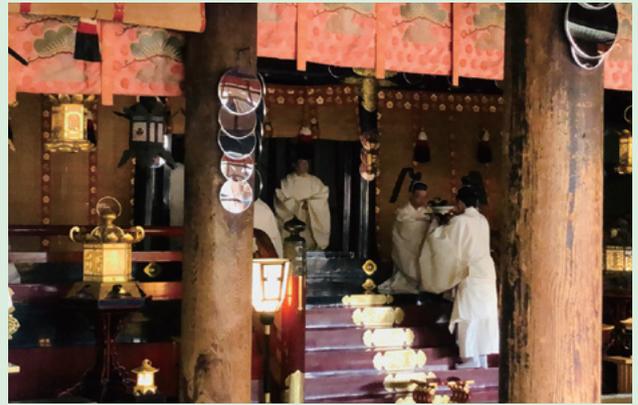


梅の実ちぎり

六月中旬

正月の縁起物として新年の祝膳に欠かす事の出来ない「大福梅」の実摘み取りを当宮神職・巫女・職員らと、氏子崇敬者の奉仕により、六月中旬から約一週間がかりで行う。

梅とゆかりの深い当宮には、約五十種・千五百本の梅の木がある。収穫は例年約三トン程を見込んでおり、採取した後すぐに塩漬され、梅雨明けを待って境内で土用干しを行う。



宮渡祭（中祭式）

六月九日

多治比文子と近江国比良宮の神主神良種（みわのよしたね）の子太郎丸という七歳の少年に御神託があり、文子・良種・北野朝日寺の僧最珍等が協力し、平安京の北西（乾）の北野の地に菅公の神霊・菅原大神をお祀りしたのが、天暦元年（九四七）六月九日であることから、この日に御本殿において祭典を行う。



竈社例祭

六月十七日

家庭の守護神である庭津彦神（にわつひこのかみ）・庭津姫神（にわつひめのかみ）の二柱と火を司る火産霊神（ほむすびのかみ）をお祀りする。

古来、この神々は当宮の御供所のかまどに祀られていたもので、御社殿床下には現在も古くより使われた大釜が安置されている。

また御社殿前には「明智の鳥居」と呼ばれる石鳥居が奉納されている。



青柏祭

六月十日

古代より柏の葉は御神前への供物の下に敷くために用いられ、祭事用として神聖に扱われていた。

当宮でもこの日に柏の青葉に御飯を包み御神前に供えて、日々の神恩に感謝し、季節の変わり目の無病息災を祈願する。又クルミと梅水を特にお供えする。



祭事 暦 (4月1日～6月30日)



《4月》

1日	午前10時	月首祭
3日	午前10時	神武天皇陵遙拝式
	午前10時半	祈願絵馬焼納式
15日	午前10時	月次祭
16日	午前10時	撰社 地主神社例祭
16日	午前11時	末社 文子天満宮例祭
		神幸祭当日祭 (居祭・祭典のみ)
19日	午後2時	還幸祭当日祭 (居祭・祭典のみ)
		参籠
20日	午前10時	明祭 (中祭式)
25日	午前9時	月次祭
	午後4時	夕神饌
29日	午前10時	昭和祭

《5月》

1日	午前10時	月首祭
5日	午前10時	児童成育祈願祭
15日	午前10時	月次祭
未定	午前11時	献酒祭
25日	午前9時	月次祭
	午後4時	夕神饌
31日		参籠

《6月》

1日	午前4時	撰社 火之御社例祭 (雷除大祭)
	午前9時	月首祭
8日		参籠
9日	午前10時	宮渡祭 (中祭式)
10日	午前10時	青柏祭
15日	午前10時	月次祭
17日	午前10時	末社 竈社例祭
24日		参籠
25日	午前9時	御誕辰祭 (中祭式)・大茅の輪くぐり
	午後4時	夕神饌
30日	午後4時	夏越大祓・茅の輪神事

- 4月12日賣茶本流献茶式は本年中止。
- 4月16～19日文子天満宮の神輿渡御は本年中止。
居祭として16日及び19日に祭典のみ斎行。
- 6月2日二條流献茶式は本年中止。9月27日に茶席のみ開催。



月釜献茶 (5月1日～7月31日)



《5月》

1日	献茶祭保存会	藤原 宗順	(明月舎)	中止
10日	梅文会	庸 庵	(松向軒)	中止
15日	献茶祭保存会	北野 宗道	(明月舎)	中止
	松向軒保存会	安田 宗伊	(松向軒)	中止
24日	紫芳会	梶川 芳明	(松向軒)	中止

《6月》

1日	献茶祭保存会	速水濂源居	(明月舎)
14日	梅文会	松 向 会	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	多門 宗粒	(明月舎)
	松向軒保存会	鮎子田宗恵	(松向軒)
28日	紫芳会	井田 宗美	(松向軒)

《7月》

1日	献茶祭保存会	鈴木 宗博	(明月舎)
12日	梅文会	合同 茶会	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	不審菴社中	(明月舎)
	松向軒保存会	休 会	(松向軒)
26日	紫芳会	今村 社中	(松向軒)

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、日程の変更、もしくは中止となる可能性があります。あらかじめご了承願います。



六月二十五日

御誕辰祭 (中祭式)
大茅の輪くぐり

六月二十五日は菅公の御生誕の日にあたるため、御本殿にて御誕辰祭を斎行する。
菅公は、菅原是善公(文章博士)の第三子として、承和十二年(八四五)六月二十五日、京の都で生を享けられた。またこの日は「夏越大神」といわれ、酷暑の真夏を控え、氏子・崇敬者の健康と厄除を願い、楼門で、直径五メートルの「大茅の輪くぐり」を行う。



六月三十日

夏越の大祓

日常無意識のうちに身に付いた罪や穢れは、古くより六月と十二月の晦日に斎行する大祓式で祓い清められてきた。特に六月の大祓は、「夏越の大祓」と称し、素戔嗚尊に旅の宿を供し難儀を救った蘇民将来の故事に倣い、茅の輪をくぐり、罪や穢れ・災厄を祓う茅の輪神事を、御本殿前中庭にて斎行する。

献茶祭保存会だより



北野天満宮献茶祭保存会の初寄りを、一月七日同保存会役員並びに令和二年の明月舎月釜奉仕者約三十人が一堂に会して明月舎において開催した。

宮司が「傷んでいた明月舎の修理が終わり、令和の御代になりました。初の初寄りとなりました。茶の湯の文化は日本文化を代表する素晴らしいもの。今後とも宜しくお願いします」と年頭の挨拶をし、事務局より今年の月釜奉仕者

一人ひとりに委嘱状を交付した。引き続き、保存会を代表して宰領の渡辺孝史氏が「北野大茶湯を縁とする献茶祭は明治の初めに始まって以来行われており、今後も続けていかなければならない」と挨拶された後、北野宗道氏が乾杯の音頭をとり、懇親に入った。



修復した明月舎

令和の御代を迎え、伊勢参宮
— 団長に宮階有二責任役員

新春恒例の伊勢参宮を一月二十日に実施し、神社役員・崇敬者など総勢四十九名が参加した。

神社責任役員で氏子講社長である宮階有二役員が参宮団長を務め、午前七時に北野天満宮を出発。先ずは豊受大神宮を参拝し、続いて皇大神宮にて御垣内参拝と御神楽を受け、その後はおかげ横丁を観光。帰りの道中は二見興玉神社にも参拝し、夫婦岩を見学した。

本年は令和という新しい時代を迎えて初めての伊勢参拝であり、参加者一同、心新たに願いを込めて参詣する伊勢の旅路となった。



第五回 北野天神杯 フットサルリーグ授賞式

特定非営利活動法人京都市サッカー協会（五十川繁会長）が運営する京都市フットサルリーグが一月十八日、京都市左京区宝ヶ池フットサルコートで行われた。

本リーグは「北野天神杯フットサルリーグ」として毎年開催され、今年で五回目を迎える大会。小学校六年生（U-12）の部八チームによる総当たり戦で、この激戦を勝ち上がり、決勝戦はA C G l o r i a チームと前回王者のg a t t チームとの激突となり、見事優勝を果たしたのはA C G l o r i a チームであった。授賞式では特製トロフィーと賞状、北野天満宮からは記念品の授与が行われた。

各チームは寒空の下、保護者らが応援する中を元気にグラウンドを駆け回り、熱戦を繰り広げる若者の活気あふれる姿は大変印象的であった。



J R 東海初夏企画「花手水」に協力
当宮の手水舎が色とりどりの花で鮮やかに



J R 東海「そうだ京都、行こう。」の初夏の催しとして企画されている「花手水」に当宮も協力することになり、六月より境内楼門下の手水舎に花手水を設置する。

この企画はJ R 東海が主催となり、京都市中の社寺に季節の花をメインにした「花手水」を設け、京都の新しい魅力と創造を提供することにも、京都への観光客誘致を図るものとして実施するもので、当宮のほか、楊谷寺・二尊院・貴船神社などが参加する。当宮の設置期間は六月一日から三十日までの一か月間で、使用する花はガーベラやダリア、季節のものとして青もみじなども浮かべて華やかに演出する予定。

書家池田桂鳳氏が
「東風吹かば…」の書を奉納

奈良教育大
学名譽教授で
書家の池田桂
鳳氏（八十五
歳）＝京都
市西京区Ⅱが、
菅公の御歌
「東風吹かば
…」の書を当
宮に奉納され、
一月二十一日、
御本殿で奉納
奉告祭を齎行
した。

池田氏は、
かな文字の名



手で文化功労者の日比野五鳳氏（天満書の審査員の一人、日比野実氏の祖父）に師事。日展文部科学大臣賞、毎日書道展大賞など数々の賞を受けられ、平成十九年には日本芸術院賞・恩賜賞をダブル受賞され、その後、瑞宝中綬章を受けられている。京都府と京都市の文化功労賞も受賞されており、現在も日展名譽会員、京都書作家協会会長などを務められている。

六歳から始めた書の道一筋八十年という池田氏は、中学生の頃、「天満書」の第一回に神前で書き初めをし、奉納した作品が天満宮賞に輝き、その後、「天満書」の審査員も務められるなど当宮との御縁は深い。

この日、康子夫人とともに奉納奉告祭に参列された池田氏は「令和という新しい時代を迎えた中で、菅公の御神前に自分の書を奉納できて大変嬉しく思っています」と感想を述べられた。

明月舎月釜茶会奉仕者
北風宗照先生一〇〇歳



の月釜茶会もお元気にご奉仕された。
北風先生は平成十年より明月舎月釜茶会にご奉仕され、現在も活躍されている。

明月舎の月釜奉仕者としてお点前をされている北風宗照先生が、二月十一日に、めでたく一〇〇歳を迎えられた。

当宮月釜での永年のご奉仕について北風先生は「この年まで元気に過ごせて、お茶に携われることを嬉しく思います」と述べられ、二月度

京都府神道青年会がヤチマタ募金活動
「交通遺児救済にご協力を」

京都府内の神社の若手神職で組織する京都府神道青年会が、初天神の一月二十五日、楼門前で参拝者に向けて「ヤチマタ募金」活動を実施した。

この活動は京都府神社庁が行っている交通遺児救済のためのボランティア「ヤチマタ募金」活動に呼応するもので、初天神での実施は恒例。会員約十名が「交通遺児救済にご協力下さい」と参拝者に呼びかけた。



春の曲水の宴中止
参加予定の詠者六人が御本殿参拝

三月七日齎行予定であった春の曲水の宴は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となったが、詩人・歌人として参加予定だった詠者のうち中学生を除く六人が同日、御本殿に正式参拝した。



や短冊に歌題にそった漢詩・和歌をしたためて、それぞれ詠みあげ、御神前に奉って玉串を捧げた。

参拝後、宮司が「残念な結果となったが、次回は完全な形で盛大に齎行できることを願っている」と挨拶した。

●ご参拝された詠者

- ウスビ サコ 京都精華大学学長
- 今出川 行戒 比叡山延暦寺 副執行
- 林 宗一郎 観世流 能楽師
- 川崎 仁美 盆栽 研究家
- 定家 亜由子 日本画家
- 大西 里枝 (株) 大西常商店 若女将

正式参拝された皆様（敬称略）（一月～三月）

- 一月 十八日（土） 昭和きもの愛好会
- 一月 十九日（日） 伊左見地区五社総代研修会
- 一月 十九日（日） 野上八幡宮
- 一月 二十七日（月） 参議院議員山谷えり子
- 二月 一日（土） マリアズベビーズソサエティ
- 二月 五日（水） 八幡神社宮司黒木治夫
- 二月 十日（月） 弥榮自動車株式会社新人研修会
- 二月 二十三日（土） 京の冬の旅
- 二月 二十七日（木） 大宮八幡宮
- 二月 二十九日（土） 関西珠洲会
- 三月 三日（火） 全国天満宮梅風会理事会
- 三月 七日（土） 詩歌奉納式
- 三月 十四日（土） 戸塚ヨットスクール
- 三月 二十一日（土） 京都連歌会

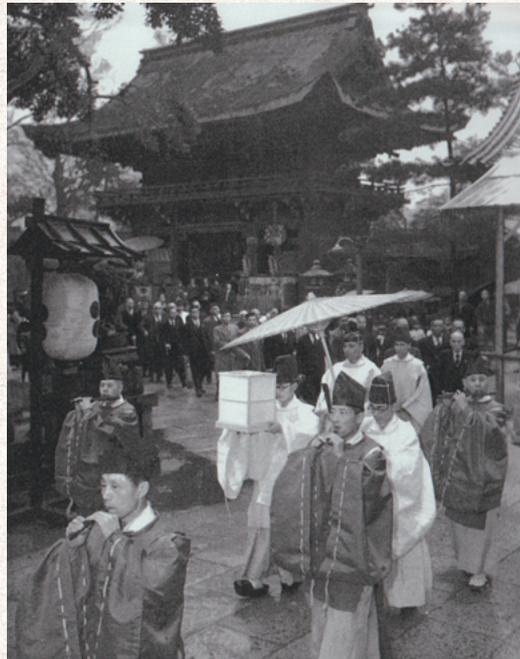
挙式された皆様（一月～三月）

- 二月 二十二日（土） 水口 真吾・貴子 　ご夫妻
- 二月 二十九日（土） 山下 健一・博子 　ご夫妻
- 三月 一日（日） 清水 達朗・沙希 　ご夫妻
- 三月 一日（日） 渡邊 博史・法子 　ご夫妻
- 三月 十四日（土） 西田 明弘・有香 　ご夫妻
- 三月 十四日（土） 神崎 亮佑・美鈴 　ご夫妻
- 三月 二十二日（日） 前田 崇行・つばさ 　ご夫妻

新郎新婦様、御両家の皆様、
末永いご多幸をご祈念申し上げます。

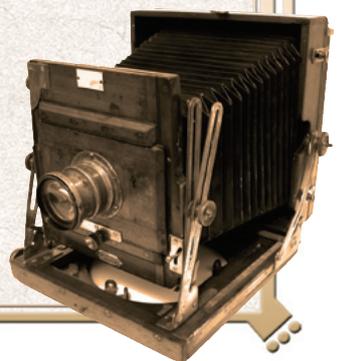


天神さん 思い出写真館



今号は、昭和二十七年（一九五二）春齋行の千五十年大萬燈祭に関する写真二枚を紹介する。大祭は同年三月二十日から四月十三日まで行なわれたが、写真は、その前日、伊勢神宮で奉戴された萬燈明の聖火が市中を行進している場面と当宮に到着した時を撮影したものである。

『千五十年祭北野會要誌史料』によると、奉戴された聖火は、千本丸太町の大極殿跡で行列の準備を整えて千本通を北進、千本今出川を西へ進み、午後三時ごろ到着している。楽人・神職・崇敬者・ボイスカウトなどからなる行列は約百人、長さは約百メートルに及んだという。



この日はあいにくの雨で市中を行進中の写真は、一様に傘をさし、「雨中、大極殿跡より行列本社へ」の写真説明がついている。が、楼門をくぐり抜けた場面では「聖火本社に到着」の写真説明があり、聖火にのみ傘をさしかけ、供奉する人たちは傘を畳んで手に持っている。ちなみに翌日の天候は晴れであり、もうこの時点で雨が上がっていたのだろう。

行列到着後、御本殿において大萬燈聖火奉戴式が執り行われ、翌二十日午前九時からの大祭執行奉告祭を迎えることになる。

北野天満宮 梅花祭献句

令和二年二月二十五日

宮司 橘 重十九選

- 天 未央の春風和らぎて令しく 尚 絹
地 陽だまりに舞ふ髪飾り風光り哉 梅ひな
人 梅の香に変わらぬもの々在を知る 梅 葉
佳 千支頭東風さわやかに初点前 梅 嘉
佳 令月や時空を超えて花開く 尚 鈴
佳 咲き始めの梅誰が袖ふれしと鼠鳴き 里の助
佳 風ふけばふり袖入りし梅手まり 市 彩
佳 寒梅も子の足早く咲きにけり 市 梅
佳 梅の香を濁さず席をゆづりけり 梅 ぎく
佳 梅林に生れ梅林を包める香 梅 ぎく
佳 梅の香を散らさぬほどの越の風 梅 ぎく
佳 青き空舞うや梅ヶ香二月尽 梅 嘉
佳 野点傘傾げ令和の初音聞く 梅 春
佳 東雲の令し月に白の映ゆ 梅 智賀
佳 来し御世に長き旅する菅公梅 梅 智賀
佳 香る風振り向き見ると夜の梅 梅 志づ
佳 時代わり幸え給い祈る春 梅 葉
佳 朝もやをうす紅に染めし社の梅 市 純
佳 一輪のひと足早く梅匂ふ 市 彩
佳 しだれ梅寒空の下春来たる 市 彩
佳 野ねずみが梅の根元で天仰ぐ 市 幸
佳 白梅や夜風に香り清々し 市 幸
佳 梅一輪令和の風に誘われて 勝 貴
佳 菅公様梅の匂いのお茶一つ 勝 貴
佳 梅の香を誰しも思わず胸にため 市 ぎく
佳 つぼみとて心うきたつ梅見かけ 市 ぎく
佳 梅つぼみ子年春にて咲き匂ふ 市 梅

献 詠 濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

一月「望」

夢を結び歎喜溢るる五輪祭

望み叶へん聖炎尊し

元号も変はりて弾む日本の本

希望も新た未来へ進まん

一つだけ叶ふ望みのあるならば

我より先に君逝くなかれ

望めとも手には入らぬ夢みつ

すすめの如くけふも働く

叶へたき望み少し老いぬれば

叶ひし望み数え嬉しむ

学舎に通ひたる日々三年過ぎ

羽ばたく君に春望むなり

砕くともまた砕くともえ砕けぬ人の

望ぞ金剛石のごとく

【評】

個人の望み、未来の社会への望み。いずれの歌からも、たとえ叶わなくても望みをもつことの尊さ、強さを感じる。生きることは望みをもつことなのかもしれない。

二月「芽」

晴れの日の誓ひと絆で発芽せん

大躍進で世界に伸びよ

立春も過ぎたばかりの猫柳光る

銀芽に雪降りかゝる

文あまた結ぶ梅の芽膨らみて

いよよセンター試験始まる

少子化で小中一貫ここのとせ

過ごす中庭新芽つのぐむ

春まだき草木も芽ぐむひとしほの

雨に深雪のしとね剥ぎつつ

京都市 小山 博子

岐阜県 波多野千寿子

京都市 若狭 静一

京都市 塩小路光胤

京都市 朝比奈崇子

東京都 白石 雅彦

京都市 田口 稔恵

京都市 小山 博子

岐阜県 波多野千寿子

京都市 若狭 静一

大阪府 村島 麗門

京都市 朝比奈崇子

武蔵野に科学の未来語る君

芽吹く姿のまぶしかりけり

海^{うみ}の原波きららかに風を生み

浦のハマボウはやも芽吹けり

【評】

人間社会に何が起ころうと、春になれば芽吹き花咲く。人はその自然に自らを託し、比喩にして語ってきた。日本の言葉は、人が自然からの語らいを受け取る知恵の宝庫である。

三月「逢坂」

逢坂を越えて行きけむ博物館

お手玉作りて昔をしのぶ

心込めチョコを持ちて逢ふ二人よ

人生の坂を元気に登らん

逢坂の関鳩の海木の芽越え

紫式部父娘越前へ

つぶやけばすでに逢坂越へたるか

鉄路のきしむ浅き春の夜

恋ひ恋ひて逢坂山へ来ればなほ

迷ひの道のいよよ険しき

幸あれと行きかふ友に声交はし

集ひし学舎逢坂の関

たまさかに逢坂山の関守は

あはれと思へわが片恋を

東京都 白石 雅彦

京都市 田口 稔恵

大阪府 村島 麗門

京都市 小山 博子

京都市 隴谷 寿

京都市 若狭 静一

京都市 朝比奈崇子

東京都 白石 雅彦

京都市 田口 稔恵

山城国と近江国の国境の関所。都と東国、北国を結ぶ主要道路が交差する交通の要衝だった。越前へ至る道行を詠む歌は、古の街道の記憶を呼び起こしてくれる。なお、歴史的仮名遣いでは「あふさか」。大阪（大坂／おほさか）を詠む歌も見られたが異なる。

● 献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

宝物殿だより

『日本書紀』完成一三〇〇年記念 当宮所蔵の重文『日本書紀』を公開 〜昨夏境内から出土の平安期の壺も初展示〜

わが国最初の勅撰の正史である『日本書紀』が完成して今年千三百年の節目に当たるとを記念し、元日から十三日まで宝物殿で、当宮が所蔵する『日本書紀』Ⅱ重文Ⅱを特別公開した。また、併せて昨年夏、境内から出土した平安時代後期の壺も初展示した。

『日本書紀』は、養老四年（七二〇）、舎人親王らの撰で完成した日本最初の勅撰の正史。神代から持統天皇までの朝廷に伝わる神話・伝記・記録などを漢文で記述した編年体の史書で三十巻からなっている。

当宮に伝わるのは、全三十巻のうち、二巻と二十四巻以外の二十八巻が揃う北野本と呼ばれる古写本。南北朝時代の十五巻を中心に平安時代から江戸時代に至る各時代に書写された取り合わせ本で、国の重要文化財に指定されている。



『日本書紀』と発見された平安の壺

元禄十五年（一七〇二）の八百年大萬燈祭の折に当宮に奉納され、北野学堂の文庫に所蔵されていた貴重本の公開だけに、初詣参拝者が熱心に見入っていた。

一方、初展示された平安後期の壺は、昨年八月、紅梅殿北側から出土したもので、高さ四十一・五センチ、最大径三十八・五センチ。肩口に「袈裟禪文」があり、経筒を納めて埋められたらしいが、中に経筒はなかった。当宮境内では最古級の出土品であり、現在調べを進めており、昨年十二月二十四日、出土の経緯などについて記者発表した。

『天神さまのシンボル——松と梅と牛—— お牛さまに願いを！』展開催、 拝観者で賑わう 併せて加賀前田公奉納の太刀五振り公開



助守 太刀 財持 文化工 重要納公 松と梅 斎公 前田 十三代 (鎌倉時代)

『天神さまのシンボル——松・梅・牛——お牛さまに願いを！』展が一月二十五日から三月二十九日まで宝物殿で開催され、拝観者で賑わった。当宮と深い縁のある松・梅・牛をモチーフとした御神宝を選

りすぐっての特別公開となった。

牛は江戸前期の御用絵師、狩野常信（一六三六〜一七一三）が描いた牛図。右隻に牡牛、左隻に牝牛と子牛という意匠で描かれた六曲一双の屏風絵の大作。常信は江戸住まいだが、内裏の造営に参画し、京にたびたび滞在しており、その折に奉納した作品と推察されている。

梅は京都画壇の重鎮で第一回の文化勲章受章者でもある竹内栖鳳（一八六四〜一九四二）の描いた



狩野常信 牛図屏風（江戸時代）

紅白梅図。この図は、皆燈講によって奉納された一の鳥居の狛犬の台座に彫られている図柄の下絵だが、着色されており、栖鳳らしい伸びやかな筆致が伺える作品。

『老松菊花図』で、父の望月玉泉（一八三四〜一九一三）の『梅花臘月図』とともに明治三十五年の当宮一千年大萬燈祭に際して対幅として奉納された作品を展示した。

同展の開催に合わせ、昨秋、金沢市の石川県立歴史博物館で開かれた『加賀前田家と北野天満宮』展に出品していた前田公奉納の太刀五振り（うち三振りは重文）も公開した。これらの太刀は、当宮への信仰が篤かった加賀前田家の歴代の当主によって元禄十五年（一七〇二）

の八百年萬燈祭を始め五十年ごとの大萬燈祭などに奉納されたもの。この中には九百五十年萬燈祭に際し奉納された鎌倉

期の名工助守作の太刀があるが、拵の刀装具に金沢の彫り物師の名前が見られ、加賀金工の粋が見てとれるとして注目を集めた。



前田家ご奉納の太刀

室長 松原 史

重要文化財 太刀 鬼切丸 奉納経緯と付帯史料考①

当宮には約百振りの刀剣が御神宝として収蔵されている。重要



奉納された刀剣

文化財に指定されているのは、現在の御本殿造営時に同じく豊臣秀頼公より寄進された太刀(刀)「國広」、加賀前田家歴代の御当主により当宮の式年遷宮にあたる萬燈祭の折々に寄進されてきた太刀「恒次」、「師光」、「助守」の三振り、そして数々の伝説を持つ名刀「鬼切丸(別名髭切)」の計五振りである。武門の崇敬を物語る太刀、刀、薙刀等様々な形状の刀剣の中には、まだ研ぎを待つものも少なくない。その中でも、近年とみに注目度の高い「鬼切丸」に関して、奉納の経緯と付帯史料に関して概説したい。

重要文化財(旧国宝)の太刀「鬼切丸 銘：安綱 別名：髭切」が当宮に奉納されたのは、明治十三年十月のことである。書付によると、有志による奉納が決定したのは明治九年で、実際の奉納日時とは誤差がある。そもそも源氏の重宝「鬼切丸」は、長らく最上家にて所蔵されてきた。しかし幕末・明治の混乱の中、最上家を離れ民間にて隠れてしまい名刀が二度と表

舞台に出てこないような事態に陥ることを恐れた有志が、北野天満宮に奉納し、本殿にて奉安するよう要請したことにより現在に至っている。呼びかけ人であり奉納を実現させたのは、当時滋賀県令を務め剣術家としても名高かった籠手田安定氏で、奉納された二重箱の蓋裏には有志三十七名の住所と名前が墨書きされている。昭和三年に現在の宝物殿ができるまでは、これらは御本殿の内陣に納められていたと伝わる。

北野社が奉納先として選ばれた理由は、民間での持ち主が北野社に崇敬を寄せていたからとも、渡辺綱による鬼切伝説ゆかりの地であったからともいわれる。付帯史料の雑誌記事『太湖』二七号 昭和十一年六月号)によると、一時民間で鬼切丸を所有したものは、夜な夜な「最上に帰ろう」という太刀の叫びを聞いて恐れをなし自身の崇敬する北野社に鬼切丸を寄進したとのことである。北野社は御霊信仰から発達し鎮めの社としても信仰されていたため、白羽の矢が立った可能性も考えられる。

【付帯史料に関して】

太刀に付帯していた主な史料は時代の古い順に以下の三冊の冊子である。

- 一、『鬼切丸伝来記』明治二年十二月二十日付
明治三年正月に明治天皇の要請による天覧に預かるにあたり最上家によりまとめられた鬼切丸の由緒書(写)
銘は「安綱」とされている
- 二、『北野神社奉剣寄進録』明治九年三月付
明治十三年に北野神社に奉納した有志中による書付
「鬼丸」表記で、銘は「国綱」とされている



鬼切丸付帯史料



蓋裏

三、『国宝鬼切丸太刀誌』昭和二年四月付

鬼切丸の国宝指定に際し北野神社としてまとめられた由緒書等

銘は「安綱」とされ国宝指定も「安綱」として通っている

その他

奉納当時の当宮宮司と奉納有志中の代表との間で交わされた思しき書簡

雑誌記事などの切り抜き、他書所蔵史料の写しなどが貼り混ぜおよび挟み込まれている。

古い名刀の常で、鬼切丸も多くの伝説に彩られており謎も多い。鬼切丸に関して近代のそれぞれの所蔵主がどのように捉えていたのか、限られた史料からではあるが考察していきたい。(次号に続く)

『廿一史』の奉納者

康熙本『廿一史』は、寛保三年（一七四三）に、下村兼雄、佐藤一張、水田長栄、広沢善彰・西川盛昌を世話役として四八人によって当宮に奉納されたものである。

『廿一史』は、二五七〇巻、全二五四冊からなる大部なもので、現在、北野文庫のなかにあつても、書架一本以上を占め、その威容をみせている。『廿一史』とは、中国の上代から元にいたるまでの正史であり、清朝四代皇帝康熙の命で刊行されたものである。

この『廿一史』が当社に奉納されたいきさつは、この書の各史の巻頭にそのいわれが記されている。そのいうところは、菅廟すなわち北野社の文

天満宮 歴史の一韵

京都大学名誉教授

藤井 讓治

庫が完成したので、同志とともに「二十一史」の善本を求め、その装丁を繕い直し奉納したとある。

各史の巻数と奉納者名は表に示した通りであるが、なかでも注目されるのが、「晋書」を奉納した三井高美と、「唐書」を奉納した下村彦右衛門である。

三井高美（一七一五〜八二）は、呉服商・両替商として著名な越後屋三井八郎右衛門家の四代で、美術品の蒐集家でもあった。この奉納時の二年前に三井八郎右衛門家を継承した人である。



廿一史

下村彦右衛門（一六八八〜一七四八）は、世話人の一人下村兼雄と同一人物で、呉服商大丸屋の初代・創業者である。兼雄は、大商人であるとともに、藤原惺窩門下四天王と呼ばれた堀香庵の曾孫正脩に師事するなど、深く学問を嗜んだ人物で、寛延元年（一七四八）には『南史』を刊行している。なお、刊行された『南史』は当宮文庫に奉納されている。奉納者は恐らくこの下村兼雄であろう。

「廿一史」奉納者一覽

史名	巻数	奉納者
史記	一三〇	足立九郎右衛門
漢書	一二〇	谷口安義他三名
後漢書	一三〇	藤田元産他三名
三国志	六五	村田長兵衛他六名
晋書	一三〇	三井高美
南史	八〇	中嶋氏
宋書	一〇〇	西川氏
南齊書	五九	芥川養軒
梁書	五六	荒川治兵衛
陳書	三六	水田長栄
北史	一〇〇	藤堂清助
魏書	一三〇	園久兵衛門弟
北齊書	五〇	大河内立三他一名
周書	五〇	庭小兵衛他二名
隋書	八五	松尾宗五門弟
唐書	二二五	下村彦右衛門他一名
五代史	七四	山口羅人他六名
宋史	四九六	広沢氏他三名
遼史	一一六	下村和泉他一名
金史	一三五	岡嶋河内大掾
元史	二一〇	桜井七郎右衛門他一名
合計	二五七七	

― 皇室の崇敬をものがたる御神宝の数々 ―

皇室と北野天満宮

開館時間 午前9時―午後4時（受付終了）
開催場所 宝物殿

令和の御代を迎えて早一年が過ぎようとしています。北野天満宮は平安時代に一條天皇の行幸を賜って以来、皇室から篤い崇敬を賜って参りました。

この度の特別展では、皇室と北野天満宮との関係に焦点をあて、当宮の御神宝のうち、御祭神菅原道真公の神としての御名前「天満大自在天神」を歴代の天皇が書き写した御神號や、神に捧げられた法楽連歌、法楽和歌の数々、霊元天皇御寄進の文台硯箱など、皇室とゆかりの深い品々を選びすくって展示いたします。



三十六歌仙画帖
東福門院御寄進
江戸時代



御神號 後水尾天皇 江戸時代

◎開館日 未定

（公開日が決まりましたらホームページ等でお知らせいたします。）

梶季嗣氏

（北野天満宮名誉宮司）

去る十二月二十八日、老衰のため京都市内の病院で死去、八十七歳。

滋賀県彦根市出身。通夜祭は十二月二十九日午後七時から、葬儀・告別式は翌三十日午前十一時から、京都市南区油小路通八条下ルの公益社南ブライトホールで営まれ、神社関係者ら多くの方々がお別れを告げた。喪主は長男で、当宮禰宜の梶道嗣氏。

昭和二十九年に北野天満宮奉職。同五十五年禰宜、平成三年権宮司を経て、同十年から十八年まで宮司を務めた。この間、北野天満宮千百年大萬燈祭奉賛会長に現裏千家大宗匠千玄室氏を迎え、五十年に一度の式年大祭『菅原道真公千百年大萬燈祭』をご盛儀のうちに斎行した。



退職辞令

○北野天満宮 権禰宜 黒木 崇史
願に依り當宮権禰宜の職を解く

○北野天満宮（令和二年二月二十九日）
北野天満宮 巫女 一色 紗里
願に依り當宮巫女の職を解く

○北野天満宮（令和二年三月三十一日）
北野天満宮（令和二年三月三十一日）

採用辞令

○北野天満宮禰宜に任ずる
禰宜 千鳥 祐兼（西宮神社より転任）
神社本廳（令和二年四月一日）

○北野天満宮権禰宜に任ずる
権禰宜 橘 重史
（伏見稻荷大社・八幡社（長谷より転任）
権禰宜 岸本 隆美（熊野神社より転任）
神社本廳（令和二年四月一日）

○北野天満宮巫女に任ずる
巫女 雨森 美咲
北野天満宮（令和二年四月一日）

○北野天満宮権禰宜に任ずる
北野天満宮 藤田 長英
神社本廳（令和二年三月一日）

○北野天満宮権禰宜に任ずる
出仕 藤田 長英
神社本廳（令和二年三月一日）

○北野天満宮権禰宜に任ずる
出仕 岡田 稔正
出仕 堀川 雄矢
神社本廳（令和二年四月一日）

○北野天満宮権禰宜に任ずる
出仕 藤田 長英
神社本廳（令和二年三月一日）

職員結婚

○堀川雄矢権禰宜と市橋明子さんが結婚
（令和二年四月四日）



紅梅殿結婚式

日本文化の発信地、 紅梅殿からはじまる家族の日

貞観元年（八五九年）菅公が十五歳の元服の折、母君は菅公の前途を祝し、

『久方の月の桂も折るばかり家の風をも吹かせてしがな』の和歌を詠み励まされました。

我が国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であつたと伝えられています。立派な家風をもった稔り多い新たな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。



火之御子社例祭 六月一日

雷除大祭

かみなりよけたいさい

●特別授与品の頒布

雷除けのお守・お札を開門の午前五時より特別に授与致します。

このお札は、「北野千体札」と称され、古くはこの日限り、千体限定の授与でしたが、近年はこの日より三日間授与しています。



六月三十日午後四時

なごしのおおはらえしき

夏越の大祓式

●茅の輪をくぐって、
無病息災を祈願！

午後四時から神事を執り行い、神職とともに茅の輪くぐりを行います。茅の輪をくぐり、半年間知らず知らずのうちに身につけた厄難を祓いましょう。

●人形・車形でお祓いをしましょう

人形にご家族それぞれの氏名・年齢を記します。次に人形で身体を撫で、三度息を吹きかけます。人形は祭礼日まで当宮に納めて下さい。交通安全祈願として、車形もあわせて納めましょう。

※氏子区域の皆様には、氏子総代を通じて形代をお配りします。



どなたでも神事に
参加できます。

御縁日 境内ライトアップ

毎月25日は天神さんの御縁日。
境内特別ライトアップ！

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）
季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。



右記QRコードを携帯電話やスマートフォンで読み込むと北野天満宮の最新情報にアクセスできます。上記の各SNSでもご案内しております。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿（遷都より600年の間）は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

- 平安京（大内裏）
- 大極殿（室町時代迄の平安京）
- 京都御所（室町時代以降の平安京）

